

11. ポーランド②

鈴木 絵美留

*各括弧内の正式名称は全てポーランド語になります
<前号(213)号から続き>

もう一つ、ワルシャワの旧市街地にある履物に関連するミュージアムを紹介したいと思います。

西洋史に詳しい方はご存知かもしれませんが、1794年(日本の江戸時代)に「コシューシコの蜂起」(Insurekcja kościuszkowska)というポーランド・リトアニア共和国でロシア帝国・プロセイン王国に対する反乱が起きました。その時、ワルシャワでの蜂起を指揮した人物の中に「ヤン・キリンスキー」(Jan Kiliński)という靴職人がいます。靴職人でありながら、市民部隊の指導者として活躍した人物であり、現在もワルシャワの旧市街地に彼のブロンズ像が設置されています。



画像はWikimedia commons, Scotch Mist 撮影

ヤン・キリンスキー像 作られたのは1936年。戦時下で1942年に一度撤去されたが1946年に再度設置された。1959年に現在のピエカルスカ通りとの交差点に隣接するポドヴァレ通りに移設された。

そして「ヤン・キリンスキー/皮革工芸ギルド」(Cech Rzemiosł Skórzanych im. Jana Kilińskiego)という彼の名を冠した現在も皮

革工芸の職人が集まる組合があり、付随してギルドの歴史や職人技を記録・展示する博物館があります。



博物館の看板

画像はWikimedia Commons, Wistula撮影

このギルドですが、建物の所有は1593年からと記載されています。日本の安土桃山時代から、このギルドの建物は存在していたようです。実際のギルドの成立の歴史はもっと古いようで、ヤドヴィガの治世下の1386年(日本の南北朝時代)に形成され、1529年、ワルシャワで11の手工業を束ねる総合ギルドが成立し、その後各職種が王権の勅許により分化したそう。中世～近世にかけて、革・毛皮を扱う革職人・靴職人らは裕福な層を形成していたようで、ヴロツワフ(ポーランド西部)やヴィリニウス(現在はリトアニア共和国の首都だが、ポーランド領だった時代もあり)などからも靴職人が流入した旨がホームページで紹介されています。

先にも述べたように18世紀末にこのギルドの構成員たちが政治的な舞台に立ち、ヤン・キリンスキーの他にも靴職人のスタニスワフ・ヒシュパニスキ(Stanisław Hiszpański)

は1863年の一月蜂起（Powstanie Styczniowe）において国民政府の一員となりました。彼は武器を取らなかったものの、侵略者に抵抗しました。また、第二次世界大戦中に多くの記録や建物が破壊されましたが、戦後1945年にギルドは活動を再開、1950～60年代にかけて「皮革工芸ギルド（Cech Rzemiosł Skórzanych）」という名称で運営され、現在に至ります。今もこのギルドではオーダーメイド靴・矯正靴の製作、靴の修理・改造、甲革（アップー）製作（cholewkarstwo）、靴・小物の革細工（kaletnictwo）、馬具（rymarstwo）などを扱っています。（ホームページには現在もこのギルドに加盟している各種工房（靴職人、矯正靴、修理、鞍・革小物など）のリストが掲載されています。）

そして、付随しているミュージアムの設立を巡る動きが1960年代に始まりました。当時、ギルドの理事会では、手工業が衰退し、工房の廃業が進む状況に危機感を抱き、職人たちの仕事と歴史を後世に残すことを決めました。この構想には、職人界だけでなく広く市民社会の関心も集まり1972年5月、ギルドはワルシャワ市歴史博物館に対し学術的な支援を求め、ヤヌシュ・ドゥルコ教授（Janusz Durko）はこの構想を好意的に受け止め、支援しました。

学術顧問にはワンダ・シャニャフスカ氏（mgr Wanda Szaniawska）とリディア・エーベルレ氏（mgr Lidia Eberle）が就任し、展示デザインはマチェイ・ラドゥツキ教授（prof. Maciej Raducki）が担当しています。また、当時の手工業会議所の指導部も必要な協力を行い、職人たちの非常に大きな献身によって計画が進みました。そして博物館は1973年1月に開館。当初は3つの趣のある小部屋で構成されていました。

博物館の目的は、消えゆく手工業職種そのものだけでなく、職人の仕事の特性、そして人々の日常生活を支える職人の姿を伝えることにありました。博物館の常設展示には、“2つの工房（szewski = 靴工房／rymarski =

鞍・馬具工房）”が再現されており、19世紀の職人の道具一式が展示されています。その中で、「特別な場所（specjalne miejsce）」がキリンスキーに充てられ、彼の業績・関係資料が展示されています。また、キリンスキー関連の具体資料例として、キリンスキーの家（Szeroki Dunaj 5）から発見された“ベルトのバックル（klamra do pasa）”が所蔵されています。この他にも、キリンスキー及びギルドの文書・記章（職人ギルドの印章・標章）などとともに、「靴職人ギルド（Cech Szewców）」「鞍職人ギルド（Cech Rymarzy）」の歴史資料」が展示されており、キリンスキーの職人としての出自・社会的役割を示す資料も含まれています。



画像はWikimedia Commons, Adrians Grycuk撮影
ミュージアム内部

ホームページがポーランド語表示のみ、ポーランドの方に聞きながらそして翻訳ソフトも駆使しながら調べてみましたが、2025年11月現在の開館情報は

HP: <https://www.cechjanakilinskiego.pl>

（ポーランド語のみ）

住所：ul. Wąski Dunaj 10, 00-256 Warszawa,
Poland

電話：(22)831-96-73

メール：cech10@poczta.onet.pl

（英語対応可能か不明です）

開館時間：月・水・木曜日、10:00～15:00

となっています。

訪れる際は最新の情報を確認・問い合わせ
してください。＜次号へ続く＞